

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 平成 26 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心として総合的研究」プロジェクト型共同研究 研究成果報告書
長與進（早稲田大学政治経済学術院教授）

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの平成 26 年度「プロジェクト型」共同研究の枠内で、研究課題名「方言と独立言語の狭間で－東部スロヴァキア『文章語』の試みを例として」を担当した長與です。本共同研究に関連して、以下のような活動を行いましたので報告いたします。

1) 2014 年 8 月 18 日－スロヴァキア共和国ブラチスラヴァ市のスロヴァキア科学アカデミー言語学研究所 Jazykovedný ústav SAV で、スラヴォミール・オンドレヨヴィチ Slavomír Ondrejovič 氏と、東部スロヴァキア文章語問題についての共同研究の打ち合わせ

2) 同年 9 月 2 日－スロヴァキア共和国コシツェ市のコシツェ国立文書館 Štátny archív v Košiciach で東部スロヴァキア文章語問題についての資料収集、9 月 3 日－コシツェ国立学術図書館 Štátna vedecká knižnica v Košiciach 古書部門、および同図書館本館で同上の資料収集、9 月 4 日－国立学術図書館本館で同上の資料収集。

3) 2015 年 1 月 30－31 日－コンスタンチーン・リファノフ氏（モスクワ国立大学）Konstantin Lifanov (Moscow State University) を招聘して（S・オンドレヨヴィチ氏は都合によりキャンセル）、スラブ・ユーラシア研究センターとゲント大学スラヴ東欧研究センター共催の国際シンポジウム「Slavic Minorities and their (Literary) Languages in the European Context and Beyond: the Current Situation and Critical Challenges」（早稲田大学）において、第三セッション「今日の東部スロヴァキアの言語状況」「Session 3. Linguistic Situations in Eastern Slovakia Today」を担当し、リファノフ氏が報告「今日の視点から見た東部スロヴァキア文献資料の言語」Язык памятников восточнословацкой письменности с современной точки зрения を行い、共同研究者の橋本聡氏（北海道大学）が司会を、長與が討論者を務めた。

4) 同年 2 月 3 日－スラブ・ユーラシア研究センターで「プロジェクト型」共同研究報告会「東部スロヴァキア文章語：封印された過去か、それとも将来の可能性か」“The East Slovak Literary Language: A Sealed Past or a Future Possibility?” を開催し、リファノフ氏が報告「アメリカ合衆国における東部スロヴァキア出版物の言語とその創出メカニズム」Язык восточнословацких публикаций в США и механизм его создания を、長與が報告「1918－1919 年のプレシヨウ市における『東部スロヴァキア文章語』の使用について」Об употреблении восточнословацкого литературного языка в городе Прешов в 1918－1919 гг を行い、上記橋本が討論者を、また野町が司会を務めた。

5) 同年 3 月 20 日－日本スラヴ学研究会 2015 年度研究発表会（早稲田大学）で、長與が報告「1918－1919 年のプレシヨウ市における『東部スロヴァキア文章語』の使用について」（日本語）を行った。

本研究の成果の一部として、上記 3) のプロシーディングスの編集作業が現在行われており、2016 年に Verlag Otto Sagner 社から出版される予定である。